

## 東京の地下鉄を考える懇談会について

東京の地下鉄の課題や改善策等について、猪瀬副知事が、会計・経営や都市交通政策の専門家等、各界の有識者の方々と幅広く意見交換を行うため、「東京の地下鉄を考える懇談会」を開催しました。

### 【出席者】

家田 仁 (東京大学教授)  
大宅 映子 (評論家)  
樫谷 隆夫 (公認会計士・税理士)  
勝間 和代 (経済評論家)  
佐藤 可士和 (アートディレクター)  
中条 潮 (慶應義塾大学教授)  
塚田 博康 (ジャーナリスト)  
富山 和彦 (㈱経営共創基盤代表取締役CEO)  
中村 英夫 (東京都市大学学長) (50音順・敬称略)

### ○ 第1回開催 (非公開)

平成22年9月2日 (木曜日) 午後4時00分～午後5時50分

### ○ 第2回開催 (非公開)

平成22年10月26日 (火曜日) 午前10時30分から12時30分

### ○ 第3回開催 (非公開)

平成23年3月3日 (木曜日) 午後4時30分から午後5時30分  
「東京の地下鉄の一元化等に関する協議会」の内容を報告しました。  
(出席者の主な発言は別紙のとおり)

お問い合わせ先  
知事本局 政策部 政策課  
電話 03-5388-2190

## 東京の地下鉄を考える懇談会(第3回) 主な発言

(会議は非公開のため、本掲載について各出席者の同意を得ている。50音順敬称略)

### ◆家田仁氏(東京大学教授)◆

- 利用者の視点に立った統合的なサービス向上という、今まで動かなかったものが動くようになったというのは大きな成果である。今後は、具体化、深度化、拡大をお願いしたい。特に、拡大の面は、メトロと都営だけではなく、東京都にある鉄道やバス全般の乗り継ぎやサービス一体化について、組織的な動きをお願いしたい。
- 職員が認識している現場の問題の改善には、それを後押しするパワーが必要。サービス向上はユーザーが望んでいるというムーブメントを作らないといけない。サービス評価、問題箇所の発見を、ユーザーも入って行うオープンな仕組みを作ることが課題である。東京都のような公的機関が重要な主体としてやってほしい。

### ◆大宅映子氏(評論家)◆

- 最近、地下鉄に乗るようにしているが、青山一丁目の大江戸線と半蔵門線の乗換表示のように、案内表示が使う側の身になっていないと感じる。もうちょっとわかるようにしてほしい。パリの地下鉄では迷わない。
- これだけ地下にネットワークを張り巡らせているのに、皆が便利と言っていないのは摩訶不思議な話である。

### ◆樫谷隆夫氏(公認会計士・税理士)◆

- 一元化の方向が少し見えてきたということは非常によかった。
- 地下鉄一元化の意義は、利便性向上のみならず、混雑緩和である。一元化により大きな組織が力を合わせれば、混雑緩和につながる次の地下鉄網を考えることも可能になる。その意味でも、地下鉄一元化は時間がかかってもやりとげなければならない。
- どの組織でも職員は、課題や問題を大体わかっているが、それらを集めて実行するマネジメントが必要なのではないかと思う。

### ◆勝間和代氏(経済評論家)◆

- 現実的に一元化に向けた取組みを進めることで、利便性が非常に高まるということが、ユーザーに伝わるといいと思う。今回の合意案に賛成である。1つでも2つでも実例を作って推し進めるべきである。
- 乗ったことのない人が多いと思われる新しい路線(大江戸線、南北線、副都心線など)を知ってもらうためのキャンペーンや、「地下鉄検定」のような楽しいアイデアで都民を巻き込みながら勉強するような仕組みもあるといいのではないか。

◆中条潮氏(慶應義塾大学教授)◆

- 今回の取組は、第一歩としてよかったと思うが、目的は九段下駅ホームの壁を取ることでなくもっと先にあるので、あきらめないでやってほしい。
- 地下鉄の競争相手は、メトロと都営の外にいる。便利になればお客さんが増え、増収になる。増収により、結果的に職員の給与や待遇の改善といったインセンティブにつながる制度にしなければならない。そのためにはやはり民営化が必要である。地下鉄市場内では競争が機能せず、都営とメトロは統合して規模の利益を考慮したほうがよいから、民営化はメトロだけ先行せず、一緒に行うほうがよい。

◆塚田博康氏(ジャーナリスト)◆

- 合意は第一歩である。今後、具体的な問題になってくると、かなり詰めた議論が必要になる。財源の問題も含めてやっていただきたい。
- 総合的な都市政策の中で、地下鉄をどう位置づけるのかという議論がまだ十分ではない。ここまで来たものをどう発展させていくのかということも、考えていく必要がある。

◆富山和彦氏(株経営共創基盤代表取締役CEO)◆

- まずは現実的な成果が出て、前に進んだのは素晴らしいと思う。
- 仮に東京メトロの早期民営化となると、短期的な株主利益と相反することは、現実的にできないことが増えてくる。そういった意味で、早期完全民営化が事実上、凍結状態にあることは非常に良いと思う。
- 一元化の議論は持続的に続けないと元に戻ってしまうので、粘り強く継続的に進め続けられないといけない。今後は持続力の勝負になるという気がする。

【ご欠席の方から事前に寄せられたコメント】

◆中村英夫氏(東京都市大学学長)◆

- 今回の合意は、まずは大きな成果である。
- 提案させていただくと、都営とメトロは同じ地下鉄なのだから、広報や乗務員の訓練・研修を一緒にやったほうがいい。それは経営の効率化にも繋がるし、お客様サービスにも繋がる。また、駅のデザインをもっと一緒に協調してやっていく。
- 最終的には組織を一つにしてやるべきだと思うが、段階を踏んでいくことが大事だと思う。

以上